

磐城時報

日刊 九月廿夕
編輯人 岡田弘成
印刷所 磐城時報印刷所
發行所 磐城時報社
電話 二二二二
廣告料 行字一文字五銭
印刷料 一文字一銭
代印 一文字一銭

第三校落成式に

工事関係者を表彰

十月一日盛大に舉行

平町第三小學校増築工事落成式は既報の如く十月一日午前九時から來賓を招き舉行するが、當日は工事関係者として

丸山慶治、橋本喜七、山本裕次郎、小野伊佐治、松崎長太郎、石山治三郎、根本品藏、馬目武之助、猪狩徳徳、荒川淺次郎、佐藤幸太郎、吉村安治郎、鈴木光吉、緑川三郎の各氏に紀念品を贈つて謝意を表する筈である。當日報告する工事経過左の如くである。

第三校二七五坪三合九勺の増築工事は去る六月十三日入札執行、萬二千三百八十坪で丸山慶治に請負はしめ同月十五日工事に着手、七月十七日日本工部局の一部建築工事入札を執行千三百三十八坪六十六坪で橋

本喜七と隨意契約を以て同人に請負はしめたり、其間降雨並に工事の一部變更を要したため兩者共に十内外の延期を要したるも工事は殆んど完了したるを以て八月三十一日検査を施行したるに九月一日授業開始の階、教室には何等支障なかりき、八月末日の検査に際しては工事中の壁の保存等に關し將來を考慮し作業延期をなしたる處九月十八日丸山慶治より竣工届出ありたるを以て九月二十六日同工事の検査を了したり。而して本工事着手以來難工事なるを以て竣工期日並に第三校の初期休業後の授業開始のみを考慮したる處囑託技術員の精勵す、他町村と同額の賦課は不公平で不況の折柄負擔に堪えぬと騒ぎ出し郡聯合青年團を脱退するといきまいてゐるが、他も波及するものを見られ注目されてゐる。

湯本小學校庭に

縣下第一のグラウンド

例外の失業救済事業法が許され

内務省の方針として最初六大都なつたが、町としては全國で湯本町町間町七二給木三郎(二五)市にのみ施行する豫定であつた本町一ヶ所が同法を適用されるは二十七日自分の飼犬を撲殺し、増加により範圍を擴大され市春以來熱心に町營グラウンドを建設二十九日平署で科料三圓に處制施行の地にも施行される事に置すべく運動中の處今内務省された。

れる見込である。尚町ではこれに關聯し町營職業紹介所を常設す、く日下青年職業紹介事務所に申請中である。

篠山校長

三日着任

新任平第一小學校長篠山廉氏は三日午前本署發同午後平署着任中である。

秋期衛生協議

平署の鐵道所有地三十坪を平町に寄附し正式交換をなした。

自動車ポンプ

村では自動車ポンプを購入した。十月三日平消防組の自動車ポンプ係を組織し模範法を練習する。

貨物自動車

小名濱町古港貨物自動車業平野直康方運轉手鈴木麟三(二〇)は二十七日午後二時四十分頃、ラックを運轉し東白川郡宮本村大字松川地内橋梁上にさしかかつた際自轉車に乗つて来た同所の鈴木正八(二〇)と衝突正八の左足に全治一週間の擦過傷を負はせた。

負擔金が不公平だと

箕輪青年團憤慨

聯合青年團から脱退か

箕輪村第二青年團では郡聯合青年團維持費として他の町村と同額の十圓を割當せられたが、同青年團は團員僅か三十名に過ぎず、他町村と同額の賦課は不公平で不況の折柄負擔に堪えぬと騒ぎ出し郡聯合青年團を脱退するといきまいてゐるが、他も波及するものを見られ注目されてゐる。

飼犬を

殺して食ふ

平町では十月一日から水料を改定し、その要件を一般町民に知らせるため大体左の如き注意書を全町に配布し遺憾なきを期する事になつた。

平驛前の廣場

平町で鐵道に寄附

平驛前廣場中央約二十九坪は平町有地となつてゐるので、湯本町に合自動車救急車が毎日停車し交通上支障を來してゐるので、鐵道並に平町當局で協議した結果之を鐵道に無償で寄附しその代償として平驛北方鐵道官舎附の鐵道所有地三十坪を平町に寄附し正式交換をなした。

自轉車と衝突

小名濱町古港貨物自動車業平野直康方運轉手鈴木麟三(二〇)は二十七日午後二時四十分頃、ラックを運轉し東白川郡宮本村大字松川地内橋梁上にさしかかつた際自轉車に乗つて来た同所の鈴木正八(二〇)と衝突正八の左足に全治一週間の擦過傷を負はせた。

改正水道料金について

全町に注意書配布

以上さへ使はなければ一ヶ月の料金は二十五銭です。二、私設共用栓にも量水器がつく。各戸で一ヶ月使用水量七立方メートル(一石一斗七升五合)迄は一ヶ月の料金五十三銭に改正され、量水器使用料四十五銭はその水栓の所有者が負擔する、使用者の中に浴槽がある、立方メートルを差引いてか頭に任命された。

秋の帽子!

中野洋品店 電話五十三番

私生兒認知

訴訟却下

平町町間町外田とし(二四)は同町島城跡黒木清(二七)に暴行を加へられて女兒を分娩したといふので男を相手取り支那に提起した私生兒認知は二十七日中島裁判長から女は既に他の男と關係があつたといふ理由のもとに申立を却下された。

検査に合格

平町鑛田町三七町會議員鈴木光吉氏二男定光氏は検査試験に合格し東京府から小學校本科正教員免狀を下附された。

雇人横領

平町一丁目飲食店富士方雇人川上正治(十九)は今春來得意先から集金したるば十餘圓を横領したので二十七日平署の取調をうけた。

迅速に廉價

印刷物は加納活版所

平町人事

出生 橋本小路一鈴木政勝四女トキ子、古川治明三女城縣多賀郡磯原町三九ノ二菅波ハル子、和子

婚姻 仙臺市南町治町六三内郷村大字宮宮澤二石田秀(三八)平町三丁目三三鈴木マチ(三三)栃木縣上野郡那市町大字今市七六二長島ケ(三八)平町一丁目五〇平野井國雄(三八)

死亡 道尾小路二五八子保風、月見町三菅野徳三郎(六三)

女留置人の死

(一) 一警察官の手記
 雨は止みそうもなく、夜と共に風も加つて居た。外は真暗な中に樹々がざはめいて、其の度に破れたガラス窓から風が吹き込んで、看視室特有の高い天井から釣つてある電燈がかすかに揺れて、机に寄り掛つて居るK巡査の影がその度に動く。何時も同じ様に室は狭い上に机が四つばかり四方から合つてゐる。四方の壁にくつゝいて書類箱が雑然とあつたり、被褥者や検査者達の衣類や所持品を入れた箱があつて、その何れもが塵に塗れて汚ないばかりでなく、白い管の壁は剥げ落ち、醜い黒白の斑を畫ひて居た。もう余程更けたとみへて、道行く人の足音も絶へて久しく、只窓近い風の樹に衝る風と雨の音のみがしきりだ。
 彼は、書間の勤務の整理も大分すんで居た。腕時計は未だ交替時間の二時には成つてゐなかつた。今まで彼は何度時計を覗き込んだ事だらう。その度に早く交替時間になつてくれよとよいがと念じたことか、やがて肉にもセコンドの列みは遅々として進まない様に思へてならなかつた。
 「ウ、ウーン」その時また箱(彼等は留置室をこゝと呼んでゐた)の方からうなされる破綻者の呻きを聞いた。彼はさつきから、何度この呻きを聞き、そして薄気味悪い思ひをして居た事であつたことか。
 「おせい、俺が悪かつた。勘弁してくれ」と殺した娘の念に際まされ續けて居る殺人犯の呻語を聞く度に、多少精神の上自分も喉や腹を切つたやうに、警察署に飛び込んで来た時の惨事を思い出して、今宵は少しは静かだと思はれて居たが、薄気味悪いものに思はれて居たがなかつた。

土地賣却廣告

- 一、平町字大町十番地 宅地五百六十四坪 (分譲致します)
 - 一、同 五番地 宅地三百七十三坪四合 (同上)
 - 一、同 五番地ノ二 宅地百五十四坪 (同上)
 - 一、同字新川町二十三番地 宅地百九十三坪三合 (同上)
 - 一、同 十七番地 二百九十一坪 (同上)
- 右至急賣却致します
 御希望の方は左に御相談下さい
 平町字大町四番地 中野勇吉 電話一三三番

かまぼく 製造
 折詰仕出
 平町一丁目 吉原揚 電話一四一番

外科 一般外科 内臓外科
 性病科 X光線科
 入院隨意 (自炊の便あり)
 元赤心堂病院跡
 安齊外科醫院 電話四七五

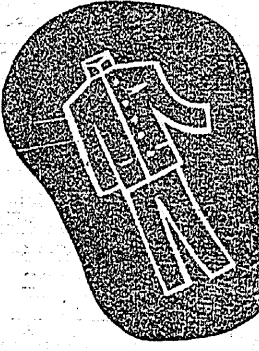
耳鼻咽喉科 専門
 平町田町七十番地 山内醫院
 入院隨意 醫學士 山内亨吉
 病室完備 電話六九一番

和洋銅鐵金物問屋
 久益屋商店
 諸橋久太郎 電話九九番

東神火災保險株式會社 警城代理店
 東京動産火災保險株式會社
 河田鐵工場 梅吉
 營業所 福島縣平町白銀町一
 本社 電話三二九番 二九五番
 仙臺支店 東京市日本橋通り三丁目
 仙臺支店 仙臺市大町三丁目

外務社員採用
 初任固定給月三十圓
 廿五才以上 男女、を問はず
 履歷書携帶左記へ 面會毎日午後
 平町田町一七 レストラサンサロン方
 仁壽生命平駐在 吉田仁三郎 電話三五二番

小學生用(長ズボン付)
 A.....90.00
 B.....1.10.00
 特製品.....2.50.00
 中學生用
 特製6號.....3.50.00
 御注文(持上).....6.50.00
 ふかや洋服店 平三 電話203

黒小倉通學服賣出

 冬服の御用意をなさいましたか
 弊店は御満足の頂ける黒小倉を
 澤山取揃へ特價にてお務めして
 おります。

蒲鉾製造開始
 氷水賣出中は特別の御引立に預り有難く御
 禮申上ます
 本日より例年の通り蒲鉾製造を開始しまし
 たから倍舊の御引立を願ひ上げます
 かまぼこ
 折詰仕出し
 御惣菜用さつま揚、吉原揚
 平町二丁目 藤市蒲鉾店 電話三〇五番

コンボーク 鹽豚
 平町田町 三三三三屋 電話三三三番

二葉印刷所
 平町仲町・電話一九三番